# 競 技 注 意 事 項

## １．競技規則について

**本大会は、2026 年公益財団法人日本陸上競技連盟競技規則、競技用靴に関する規程並びに本大会申し合わせ事項により行う。**

### （１）競技用シューズについて

①靴底の厚さについては、TR5 及び「競技用靴に関する規程」に準じる。規定を超える靴での出場は認めない。

| 種　　目 | ソールの最大厚さ | その他の要件 / 注意 |
|---|---|---|
| トラック種目<br>（競歩を除く）<br>フィールド種目<br>（サークルから行われる投てき種目を除く） | スパイクシューズ<br>または<br>ノン・スパイクシューズ<br>20㎜ | すべての跳躍種目では、前足部中央のソールは、踵中央のソールより高くなってはならない。<br>（競技用靴に関する規程 8.3 項および 8.4 項参照<br>：シューズ内部の長さの 12%と 75%の位置） |
| 競歩種目<br>（トラック、道路） | 40㎜ | |

②World Athletics（WA）が承認したシューズリストで N と記載されている靴については使用ができないので、必ず事前に、WORLD ATHLETICS の LIST OF APPROVED ATHLETIC SHOES で使用が認められることを確認しておくこと

③審判員が疑義を抱いた場合、競技開始前、競技中、または競技終了後に競技用靴の検査を行う場合がある。規定違反と認められた場合は審判長が「失格」と判断し、記録が取り消される場合がある。

（２）ビデオ装置、レコーダー、ラジオ、ＣＤプレーヤー、トランシーバーや携帯電話もしくはそれらに類似した機器を競技区域内で所持または使用することはできない。(TR6.3.2)

（３）当該種目出場の競技者以外は、競技区域に立ち入ることができない。また、競技者は招集完了後競技終了まで、当該競技役員の許可なく競技区域から離脱してはならない。

## ２．競技場（スタンド）への入場について　※競技場出入口（ゲート）図参照

（１）トラック内、及びスタンドへの入場に正面玄関入口を使用しないこと(競技役員を除く)。

（２）トラック内への出入りは、E ゲートおよび F ゲートを使用すること。

（３）スタンドへの入場は、各スタンドのゲートを利用すること。**開門時の入場はメインスタンドＢゲートおよびＣゲートとする。**

## ３．練習について

（１）公園内での練習は一切認めない。

（２）練習はサブグラウンドで行うこと。学校・個人のハードルやラダーなどは持ち込まないこと。
また、ゴムチューブなどを使ったスピード練習は禁止する。サブグラウンドでの**日傘の使用は危険防止に努め、周囲の安全に配慮して使用すること。**

（３）練習ではメディシンボールなど、物を投げる練習は禁止する。

（４）走高跳、走幅跳、三段跳は準備が整った後、競技役員の指示で練習してもよい。

（５）競技開始前のトラックでの練習については、次のとおりとする。

## 競技開始前の競技場での練習について

競技会開始前の競技場（トラック）での練習は、周囲の動きに十分注意して行うこと。
ただし、**練習可能時間内であっても競技会準備を優先とし、競技役員の指示に従うこと**。
なお、競技場での練習は**15時30分まで**とする。
**なお、競技場練習では安全のため日傘の使用を禁止する。**
※いずれもジョグはレーン外で　・１．２レーンは長距離ペース走用
【１日目】
〔ホームストレート〕〔バックストレート〕
３～６レーン＝コーナーからのスプリント練習
７・８レーン＝直線からのスプリント
〔バックストレート〕
４～８レーン＝リレー練習
【２日目】
〔ホームストレート〕
３～４レーン＝コーナーからのスプリント練習
５～８レーン＝直線からのスプリント
〔バックストレート〕
３・４レーン＝リレー練習
５・６レーン＝男４００ｍＨ　７・８レーン＝女４００ｍＨ
【３日目】
〔ホームストレート〕〔バックストレート〕
３～５レーン＝コーナーからのスプリント練習
６～８レーン＝直線からのスプリント練習
【4日目】
〔ホームストレート〕
３・４レーン＝直線からのスプリント練習
５・６レーン＝１００ｍＨ　７・８レーン＝１１０ｍＨ
〔バックストレート〕
３～６レーン＝コーナーからのスプリント練習
７～８レーン＝直線からのスプリント練習

### ４．招集（コール）について

（１）招集時刻（招集所：室内練習場）

| 招集時刻 | トラック | 棒高跳以外の跳躍 | 棒高跳 | 投てき |
|---|---|---|---|---|
| 開始時刻 | 30 分前 | 50 分前 | 70 分前 | 60 分前 |
| 完了時刻 | 20 分前 | 40 分前 | 60 分前 | 50 分前 |

（２）競技者は招集開始時刻までに招集所内に待機し、競技服装（アスリートビブス・トラックでは腰ナンバーカードを付けている状態）になり、競技で使用するシューズのチェックを受ける。整列点呼後、招集所から各競技場所へは、競技者係の誘導によってまとまって移動する。
（３）携帯電話等、競技規則 TR6.3.2 に関わる機器を持ち込んでいないか確認を受ける。
（４）招集に遅れた競技者は出場する意思がないものとして処理する。

（５）点呼の代理は認めない。ただし、**同じ時間帯に競技が行われる可能性がある場合には、第１種目の招集開始までにプログラム巻末にある多種目同時出場届を招集所に提出すること。**その際、アスリートビブス、ユニフォーム、第 2 種目のシューズのチェックを受ける。なお、第 1 種目は招集を受けなければならないが、提出をした第 2 種目は、代理を立てる必要はない。
また、ラウンド進出により同じ時間帯に競技が行われる可能性が発生した場合には、すみやかに多種目同時出場届を招集所へ提出すること。
（６）リレーのオーダー用紙提出時刻について
①オーダー用紙はプログラム巻末の所定の用紙を使用し、第 1 組の招集完了時刻の 60 分前までに競技者係に提出すること。なお、オーダー用紙の提出がない場合は、出場する意思がないものとして処理する。
②招集時にはオーダーメンバー全員が点呼を受けること。他種目に出場していて、多種目同時出場届の提出が完了している場合には代理を立てる必要はない。
（７）止むなく欠場する場合は、プログラム巻末にある「欠場届」を、招集完了時刻までに招集所に提出すること。

**５．競技進行について**
（１）番組編成およびラウンドの通過について
①トラック競技の予選のレーン順、およびフィールド競技の試技順はすべてプログラム記載の順番とする。なお、決勝の組み合わせはすべて番組編成員が行い、場内アナウンスおよび場内スクリーンに表示するとともに、大阪高体連 WEB ページに掲載する。
②予選・決勝を実施するトラック競技における次のラウンドへの進出者について
（ア）（＋α）を決めるとき、その最下位で同タイム(1/100 秒単位)が出た場合、1/1000 秒単位で優劣の判定をする。なお、1/1000 秒単位まで同タイムの場合は、本人または代理人により抽選する。
（イ）同着により着取りによる進出者が増えた場合は、（＋α）での進出者数を減らす。
（２）競技について
①競技結果は、場内アナウンスおよび場内スクリーンで発表するとともに、大阪高体連 WEB ページに掲載する。なお、ラウンド進出に関わるものを除き紙による掲示は行わない。
競技結果が場内アナウンスで発表された時点を正式発表とする。
②当該種目出場者以外は競技エリアに立ち入ることはできない。
③スパイクのピンの本数は 11 本以内とし、9㎜ 以下のものを使用すること。ただし、走高跳・やり投については 12㎜ 以下とする。また、先端近くで少なくとも長さの半分は 4㎜ 四方の定規に適合するように作られていなければならない。スパイクのピンのチェックは１次招集時に行う。
④アスリートビブスは胸部と背部につけること。ただし、跳躍競技に出場する競技者は、胸部または背部だけでよい。
⑤トラック競技では、腰ナンバーカードをパンツの右側やや後方に付けること。なお、４×４００ｍの第２・第３走者は、次走者の待機順を明確にするため、右側に腰ナンバーカードをつけること。なお、腰ナンバーカードは主催者が用意する。
⑥トラック競技の短距離種目では、競技者の安全確保のためフィニッシュ後も自分のレーン（曲走路）を走ること。
⑦男子 3000m・女子 3000m、男 3000mW は危険防止のためグループスタートとする。
⑧男子 3000m では 10 分、女子 3000m では 13 分、男子 3000mSC では 11 分、男子 3000mW では 18 分、女子 3000mW は 21 分を超えて残りの周回には入れない。審判長が競技を打ち切る。
⑨競技エリア内に通信機器（スマートフォン・携帯電話等）やビデオ撮影機器（タブレット等）を持ち込んではならない。また、競技エリア内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。フィールド競技中に競技者が、それ以前の試技映像を観るため録画再生機器などを**スタンドの指定エリアからの手渡しや吊り下げ等**により競技エリア内に持ち込むことは認められる。

⑩トラック競技における連呼応援は、 アナウンサーの通告やリレーの受け渡しの声が聞こえない場合もあるので、応援のマナーとして自粛するように。また、フィールド競技者の試技開始時の発声に対するに応答応援は、競技運営上影響する場面が多いので、これも自粛するように。
**なお、手拍子については決勝のトップ８以降のみ可とする。（高さ種目においては概ね８名）**
**⑪個人所有の椅子や大型のクーラーボックス、サーキュレーター等などは、競技会への影響や安全確保・危険防止のため競技エリアへの持ち込みおよび使用を禁止する。**

（３）走高跳・棒高跳のバーの上げ方は最後の一人になり優勝が決定するまでは次の通りとする。ただし、天候等の状況により跳躍審判長の判断で変更することもある。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 走高跳 | 男子 | 1年 | 1m65・1m80(練)　70　75　80　83　以後 3cm ずつ上げる |
| | | 2年 | 1m70・1m85(練)　75　80　83　86　以後 3cm ずつ上げる |
| | 女子 | 1年 | 1m30・1m45(練)　35　38　41　44　以後 3cm ずつ上げる |
| | | 2年 | 1m35・1m50(練)　41　44　47　50　以後 3cm ずつ上げる |
| 棒高跳 | 男子 | 1年 | 2m65 から　以降 4m05 まで 20cm ずつ　4m05 以後 10cm ずつ上げる |
| | | 2年 | 3m05 から　以降 4m05 まで 20cm ずつ　4m05 以後 10cm ずつ上げる |
| | 女子 | 1年 | 2m05 から　以降 10cm ずつ上げる |
| | | 2年 | 2m35 から　以降 10cm ずつ上げる |

※練習の高さは選手の実力に応じて追加することがある

最後の一人となり、優勝者が決まるまでは、上記のバーの上げ方とする。
同記録による１位決定と近畿大会出場権を決定するバーの上げ下げは走高跳 2cm、棒高跳 5cm とする。
男子棒高跳および女子棒高跳の練習は現地にて跳躍審判の判断により設定する。

（４）跳躍種目　競技場所および踏切板位置について
①走高跳は A ゾーン、棒高跳はバックスタンド側ピットで行う。
②走幅跳・三段跳はメインスタンド前ピットで実施する。1 組を A ピット(トラック側)、2 組をＢピット（スタンド側）とする。1 年女子三段跳は１組（1 ピット）で実施する。
③三段跳の踏切位置 砂場から 男子三段跳　1 年…11m　2 年…12m　　女子三段跳　1 年…9m　2 年…10m

（５）投てき種目について
次の記録以下の者はベスト記録のみ計測する。

| 種　目 | 男子１年 | 男子２年 | 女子１年 | 女子２年 |
|---|---|---|---|---|
| 砲丸投 | 9m | 10m | 7m | 7m |
| 円盤投 | 20m | 25m | 20m | 20m |
| ハンマー投 | 20m | 30m | 15m | 20m |
| やり投 | 30m | 35m | 20m | 20m |

※当日の気象状況などにより投擲審判長の判断で計測ラインを変更する場合がある。

（６）フィールド競技の試技時間は次のとおりとする。
【単独種目】

| 残っている競技者数 | 走高跳 | 棒高跳 | その他 |
|---|---|---|---|
| 4 人以上※ | 30 秒 | 1 分 | 30 秒 |
| 2～3 人 | 1 分 30 秒 | 2 分 | 30 秒 |
| 1 人 | 3 分 | 5 分 | ― |
| 連続試技※※ | 2 分 | 3 分 | 1 分 |

※　4 人以上または各競技者の最初の試技
※※残っている競技者数が 2 名以上の時に適用し、 走高跳・棒高跳では高さが変わった場合にも適用する。

（７）走幅跳・三段跳・投てき競技は、全ての競技者 3 回の試技の後、上位 8 名にはさらに 2 回の試技が与えられる。（合計で **5 回の試技**で行う）

**6．競技用具について**

（１）棒高跳用ポール・やり以外の競技用具は、競技場備え付けのものを使用する。

（２）やりは競技場備え付けのものを準備するが、検査を受けて自己の物を使用してもよい。
検査は、競技開始時刻の 90 分前～70 分前までに受けるものとし、**F ゲート**から入場のうえ、
器具庫へ持参すること。

**7．抗議について**

抗議は日本陸上競技連盟競技規則により、当該校顧問から、総務員に口頭で申告し、総務員が
審判長に取りつぐ。

**8．表彰について**

（１）各種目で 6 位までの入賞者（入賞チーム）に賞状を授与する。
成績発表後、速やかに玄関ホールまで賞状を取りに来ること。

（２）総合表彰式では以下の表彰を行うので、当該校（当該者）は必ず参加すること。
①男子総合、女子総合の優勝校
②男子１年総合・男子２年総合・女子１年総合・女子 2 年総合の優勝校
③男子１年、男子 2 年、女子１年、女子 2 年の優秀競技者
④男女総合優勝校の監督（顧問）

（３）学校対校得点は 1 位 8 点、2 位 7 点…8 位 1 点とし、1・2 年の得点およびリレーの得点を合計して
総合優勝を決定する。

**9．近畿ユース大会について**

（１）近畿ユース大会への出場者は各学年、各種目 3 位までの入賞者とする。ただし、男女走高跳および
男女棒高跳は 3 位までに入賞した 3 名とする。リレー種目は 6 位までとする。

（２）近畿大会の出場権を得た競技者は、必ず近畿大会受付にて申し込み手続きを行うこと。

（３）リレー種目の出場権を得たチームは、近畿大会受付でリレーオーダー用紙を受け取り、オーダーを
記入後、顧問のサインを得て申し込み手続きを行うこと。

**10. 式典について**

**（１）各種目の表彰式は実施しない**

（２）開始式は第１日目（8 月 17 日）の 15 時 40 分より正面スタンド前で行う。

（３）総合表彰式は第４日目（8 月 20 日）の競技終了後に行う。総合の部該当校の代表者は参加すること。

**11. 競技場の使用について**

（１）応援はスタンドで行い、競技場トラック周辺に降りて行わない。また、スタンド最前列及び中央通路
での立ったままの応援・観戦も禁止する。**日傘はテント設置禁止エリア以外でのみ使用可能とする。**

（２）**スタンドの椅子や手すり・壁などにガムテープや養生テープなど、粘着性テープを貼らないこと。**

（３）以下の箇所にはテントを設置しないこと。
①サイドスタンド・バックスタンド中央通路より下側
②メインスタンド中段通路より下側および屋根の下
③ビデオ監察の撮影の支障となる場所およびコーン・トラバーで規制された場所取り禁止区域
なお、テントを設置する際に、ロープ等が通路にかからないようにすること。

（３）各校部旗・横断幕は、バックスタンド・サイドスタンドを使用すること。

（４）更衣室の使用は更衣のみとし、使用後はすみやかに退室すること。また、一切の私物等を置いては
ならない。

（５）スタンド等使用した場所は、各校で責任を持って清掃し、**ゴミ等は必ず持ち帰る**こと。

（６）通行禁止、使用禁止等の指示については厳守すること。

（７）トラック、フィールドおよび練習走路以外でのスパイクの着用は禁止する。

**12. その他**

（1）**競技場敷地外の公園内ではシート、テント等による場所取りは禁止する。**
（2）顧問の受付がない学校の競技者の出場は認めない。
（3）競技中に起こった怪我等は、本部の医務室で応急処置のみを行う。
（4）盗難の発生や忘れ物に注意し、荷物等の管理は各校で十分注意すること。
（5）外国人留学生が大会記録を更新した場合の取り扱いは、大会記録（国際）として認定する。
（6）J アラート警報が発令された場合は、競技を中断する場合がある

## 個人情報の取り扱いについて

プログラム記載の個人情報（名前、学校名など）および大会結果は、新聞および大阪陸上競技協会・
大阪高体連陸上競技専門部のWEBサイト等に記載されますが、本大会関係以外には一切使用しません。
また、本大会が認めた報道機関が撮影した映像が中継・録画放送されることがあります。

## ＝　周　知　板　＝

第58回近畿高等学校ユース陸上競技対校選手権大会について
期　日：９月１８日（金）・１９日（土）・２０日（日）
場　所：奈良県奈良市　鴻ノ池陸上競技場
総監督：舩津哲史（大塚）

# 撮影規制について

**競技会での、一般（選手・コーチ・大会関係者・保護者を含む）の方の、一眼レフカメラ、ビデオカメラ、デジタルカメラ等での撮影は禁止です。**

**（高体連が許可した報道関係者等は除く・大会本部から貸与されたビブスを着用しています）**

**スマートフォンとタブレットのみ下記の①～③の場合は撮影可能です。**

**①保護者の撮影は当該選手のみ**
**②生徒の撮影は当該校のみ**
**③撮影可能エリアのみ**

**ご協力お願いします**